

## 人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

### 1. 基本情報

都道府県名及び市町村名

高知県須崎市

学校名

浦ノ内中学校

学校のURL

### 2. 学校紹介

学級数

【通常の学級】各学年1クラス 【特別支援学級】2クラス

児童生徒数

【全生徒数】62人

(内訳：1学年22人、2学年19人、3学年21名)

学校の教育目標、人権教育に関する目標など

- ・教育目標 明日もまた来たくなるぬくもりのある学校
- ・人権教育に関する目標 基本的な生活習慣・学習習慣を基盤に人権を尊重し、お互いに支え合い、高め合う生徒の育成を目指す。

人権教育にかかる取組の全体概要

豊かに育てられてきた生徒たちであるが、自尊感情が低く、自己を表現する力も弱い生徒が多い。また、学力的にも課題のある生徒も在籍している。こうした実態を克服するためには、一人一人の自己肯定感を高めるとともに、様々な体験や出会いを通じて人間関係能力を育成することが重要であると考えている。そのためには、まずは生徒一人一人の存在を認め、その人権を限りなく尊重する人権文化を学校に根付かせたい。さらには、その人権文化を地域に発信し、地域と協働して生徒たちを育む地域づくりの推進を図っていききたいと考えている。

### 3. 特色ある実践事例の内容

取組の背景

本校の生徒たちの中には、不登校や低学力、人間関係でのつまずき等の課題があり、その克服には対応にあたる教職員の姿勢が重要と考えてきた。目の前で繰り広げられる出来事を、現象面のみおさえ対応しても根本的な解決に至らないことが多々ある。それは、生徒たちが示す様々な言動には、一人一人の生いたちやくらしの現実が深く

絡んでいることが多いからである。家庭のくらしや友人関係、また、様々な苦悩や葛藤等が、その背景として内在化していると考えられる。そうした生徒の生いたちを含め、生徒を一人の人間として丸ごと受け止めて対応していく私たち教職員の姿勢が強く求められている。そこで、様々なくらしを背負う生徒を預かる教職員集団として、生徒一人一人の存在を認め、その人権を限りなく尊重する人権意識の高揚を図りたいと考えた。また、そのためには、自尊感情や自己肯定感の高揚が大切であるととらえ、取り組むこととした。

#### 取組のねらい、目的

生徒たちの自尊感情や自己肯定感の高揚を図るためには、他者からの肯定的な評価が重要であり、評価を受けることができる場面の設定や他者である地域の方々との関わりあう関係づくりが必要である。さらに地域との関わりを強化しながら、保護者や地域の方々との協働して生徒たちを育む環境づくりを推進していく。

また、生徒会行事や総合的な学習の時間等を通じて、生徒同士の関わりを深化や地域とのつながりの強化に努めるため、様々な取組を行っている。そうした取組を、人権教育の視点で整理し、目的を明確にしていくことでその内容を充実させていく。

#### 取組を実施するにあたっての視点

教育活動を人権教育の視点で4つの言葉に置き換えた。それは、「ぬくもり」「誇り」「つながり」「たくましさ」という言葉である。

「ぬくもり」には、子どもたちに向き合う私たちの姿勢を表した。教育にとって不可欠である信頼関係づくりや子どもたちの自尊感情の高揚等には、私たち教職員一人一人が「ぬくもり」の心・気持ち・姿勢を持って子どもを受け止め、対応していくことが最も必要ではないかとの思いからである。そのことを通じて、子どもたちが他者に対して「ぬくもり」を持ってくれることを期待している。

「誇り」には、自尊感情や自己肯定感の高揚を図り、何事にも前向きにチャレンジするエネルギーとしてほしいとの思いを込めた。自分自身に自信を持ち、自分が好きと言える子どもであってほしいと願いを込めた。

「つながり」には、様々な人とつながることを通じて、コミュニケーション力や他者理解、人間関係能力を培ってほしいとの願いを込めた。

「たくましさ」には、「未来を切り拓く力を持った子ども像」を重ねた。ピンチや大舞台でも自信を持って自分の力を表現し、前向きに生きる姿を夢見てのことである。

上記のような思いを、4つの言葉に込めた。すべての教育活動を「ぬくもり」「誇り」「つながり」「たくましさ」をキーワードとしておさえ、私たちの目指す子ども像の具現化につなげていきたい。

#### 取組の内容

- ・ 浦ノ内あったか教育を創る会の設立（組織メンバー：浦ノ内保育園・保育園保護者会・浦ノ内小学校・浦ノ内小学校PTA・横浪小学校・横浪小学校PTA・浦ノ内中学校・浦ノ内中学校PTA・浦ノ内公民館・浦ノ内校区住民会議）

- ・ 合同研修会の開催
- ・ あったかフェスタ（文化祭）保・小・中合同の合唱や、園児や小中の学年による合唱や劇等の発表及び地域の方の詩舞やジャグリング。また、本年度は高知工業高等学校土木科生徒による震災学習。
- ・ 学級集団の傾向を把握するためのアンケート並びに自尊感情アンケート、生活アンケートの実施と分析及び学級経営への活用。

#### 4. 実践事例の実績、実施による効果

- ・ 生活アンケートの生徒の部では、「学校生活が楽しい」に肯定的に回答した生徒が84%で、21年度より3%増であった。1年生は「自分の学級が楽しい」に100%が肯定しているのに対し、学校生活では94%になっているが、他学年との関係が数値に表れていると考えられる。  
「授業はわかりやすい」は肯定が88%で21年度より5%微増、「気軽に相談できる先生がいる」は68%で21年度より18%増となった。  
「あなたは目標を持って学校生活を送っていますか」に肯定的な回答した生徒が82%で、21年度より19%増となった。
- ・ 生活アンケートの保護者の部では、ほとんどの項目で21年度を下回る数値となった。「あなたは悩みや困ったことについて教職員に気軽に相談できますか」は60%で21年度より23%減、「お子さんは教職員に気軽に相談している」は48%で6%減、「学校は保護者や地域の意見を教育活動に生かしている」は87%で4%の減となった。また、「お子さんは学校生活を楽しく過ごしている」は89%、「教員はわかりやすい授業に努めている」は75%で2%と8%の減となっている。生徒の評価はほとんどの項目において右上がり傾向を示したが、保護者は若干ながら右下がり傾向となった。信頼関係づくりをさらに配慮する必要がある。

生活アンケートの生徒の部の推移（2007～2010年）

	2007	2008	2009	2010
(1) あなたは学校生活が楽しいですか	86%	92%	81%	84%
(2) あなたは授業がよくわかりますか	85%	79%	83%	88%
(3) あなたは目標を持って学校生活を送っていますか	73%	71%	63%	82%
(4) あなたは悩みや困ったことについて気軽に先生に相談できますか	28%	40%	51%	69%
(5) あなたは自分の学級が楽しいですか	87%	95%	93%	89%
(6) 学校や先生はあなたたちの意見や希望を聞いてくれますか	77%	76%	76%	70%

#### 5. 実践事例についての評価

自尊感情の高揚はなかなか数値では計りにくいものであると感じる。ただ否定的に表現してきた生徒については、教職員で共通認識を図りながら、その配慮に努めてきた。

保護者との信頼関係づくりには努力が求められているが、生徒のアンケートや日常の活動等では、随分と前向き・意欲的な姿を見ることが多くなってきたように思われる。しかし、まだまだ自分を肯定的に受け止められない生徒や、自分の思いを表現することが苦手な生徒等、課題は山積である。

確かに学力面や生活面の育成は不可欠だが、その前提として、生徒が安心して通える学校、安心して過ごせる学校づくりを位置付けたのである。そこで、その想いを端的に学校教育目標に表現したのが「明日もまた来たくなる めくもりのある学校」である。その具現化のためには、教職員の人権意識・人権感覚が重要である。

教職員の間力を鍛えつつ、「地域に学ぶ学校づくり」(自分や仲間、地域の良さと出会える教育内容)、「わかる楽しい授業づくり」(一人一人が大切にされる授業)、「元気と笑顔の学校づくり」(お互いの良さや可能性を認めあえる仲間)、「明るくきれいな学校づくり」(落ち着いて、安心して過ごせる校舎・教室)、「あたたかさに満ちた地域関係づくり」(一人一人の存在が認められる地域)の5つの観点からのアプローチを強化していきたい。

## 【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

須崎市立浦ノ内中学校

人権感覚の育成のためには自尊感情を培うとともに共感能力や想像力,人間関係調整力を育むことが求められる。本事例においては,当該学校の生徒の実態を鑑み,「取組のねらい」として「自尊感情の高揚」「人間関係能力の育成」等に向け,保護者や地域の人々との協働による「あったかフェスタ(文化祭)」等に取り組むことにより,生徒が他者からの肯定的評価を受けることができる場面等を設定している点で実践の効果を高めている。また,学校としての取組の点検・評価として生徒等(保護者)に対して各種アンケート(「自尊感情アンケート」「生活アンケート」等)を行い,その調査結果を取組の評価に反映させている。こうした具体的な評価により,教職員が本実践を検証し,今後の指導方法の工夫改善を進めるため,教職員相互の共通理解が図られるであろう。